

2005.3 No.32
北海道登別発 ふるさと通信

湯かげん

特

集

鉱山の森、
春への誘い



鉾山の森、 春への誘い

ネイチャーセンター『ふおれすと鉾山』が誕生して3年。今、ふおれすと鉾山では、自然を生かしたさまざまなイベントや取り組みが行われています。

冬が終わり、生命の息吹を感じさせてくれるこの季節。昨年春、市民が参加して行われたユニークなイベント『ワンデイハイク』（ふおれすと鉾山活動支援組織『モモンガくらぶ』主催）の紹介を通して、皆さんを登別の美しい春に誘います。

鉾山の森、 春への誘い

『ワンデイハイク』同行取材

平成16年4月25日(日)、ふおれすと鉾山から三段の滝まで、のんびり散策しながら、自然観察を楽しむ『ワンデイハイク』（ふおれすと鉾山活動支援組織『モモンガくらぶ』主催）が開かれました。前年の開催が好評で、今回2回目の開催となりました。

鉾山の森へ、 春を探しに出発！

【9時30分】登山帽にトレッキングシューズ、背中にリュックのいでたちで、参加者33人がふおれすと鉾山前に集合。登別市民のほか、室蘭や苫小牧などからも参加しています。

天候は晴れ。

空を仰ぐと、青い空がうつすらとかすんでいます。

暦の上では春でも、カム

イヌプリのふもとにある鉾

山町には、あちこちに残雪が見られます。ときおりそよぐ風は、まだ少し冷たい。それでも、肩や背に降りそそぐ日差しは、確かに春を感じさせてくれます。

【10時5分】出発です。目的地の三



段の滝までは、約4・5kmの行程です。木々が芽を吹き始めた自然景観や野鳥のさえずり、山野草を観察しながら、のんびりと行きましょう。



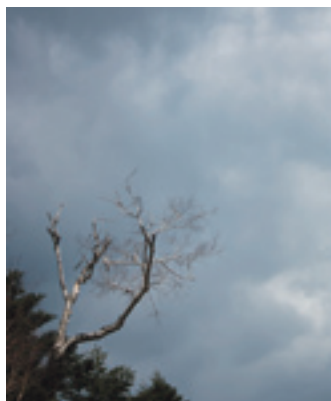
ひとつの世界が 見えてくる

10分ほど歩くと、体が温まってきます。ときおりほほにあたる風が、とても心地よい。

何気なく通り過ぎてしまいがちになりますが、ちよつと道端の落ち葉をのぞくと、フキノトウやワラビ、ギョウジャニンニクなど春の味覚が見つかります。そして、目を凝らすと、山野草が花を咲かせていました。

「この花、見たことあるわ。何という花?」「この白い花は?」と参加者。ふおれすと鉾山の職員が、一つ一つ名前を教えてくださいました。

近ごろは、ガーデニングブームで、



三段の滝



▲ネコノメソウの仲間

「この草、猫の目に似ているでしょう」とふおれすと鉱山の職員が指をさす。のぞいてみると、確かに似ています。

▼エンレイソウ



▲ミヤマスミレ

家庭の庭にも彩り豊かなたくさんの花が見られるようになりました。しかし、山野草はこれらと違って、どこかつましく、清らか。周りの自然ととても調和していて、『和』を感じさせてくれます。

【11時10分】「出発しましょう」。
『モモンガくらぶ』のメンバーの掛け声で、再び歩き始めます。
しばらく行くと、「カエルの卵かしら」「サンショウでしょ。昔は街中でもたくさん見られたのにね」と、参加者の声が…。道端



▲エゾサンショウウオの卵

【10時52分】1回目の休憩です。
『モモンガくらぶ』のメンバーが先回りをして、ベンチと熊笹茶を用意してくれていました。
初対面でも、皆さん自然愛好者。すぐに親しくなって、山登りや自然観察などの会話が弾みます。



「『ネコノメソウ』っていいいます。花が咲くと、猫の目を黄色に輝かせると、さう」
思わず、「へえ」。自然観察で、またひとつの世界に出会った。あらためて自然の懐の深さを感じさせられました。

の湿地を参加者が数人、のぞき込んでいます。エゾサンショウウオの卵でした。近くにはカエルの卵も。

確かに、登別でも少しずつ自然は失われています。子どものころ遊んだ湿地や沼、草むらが消えて、今は家が建ち並んでいます。身近にいたカマキリやヤゴ、トノサマバッタはどこへ行ったのでしょうか。身近にあった自然は、幼いころの記憶とともに消えてしまいそうで、寂しくなっています。

しかし、ここ鉾山地区では自然が生命をしっかりと育んでいました。

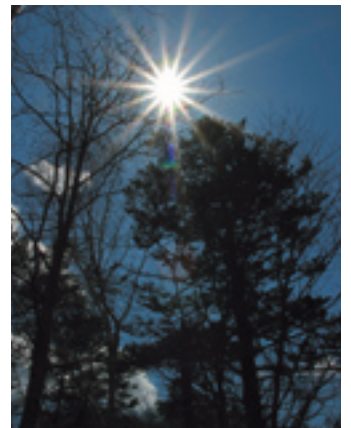


▲男の子が『エゾサンショウウオ』の卵を見せてくれました。

ふりそそぐ春の光 真つ白な雪が…

【11時31分】2回目の休憩です。ずいぶん歩きましたが、息を切らす参加者は見当たりません。山歩きになれた方が多いのでしょうか。

気温が上がってきました。空から、清らかな光がさんと降りそそいでいます。



「雪がきれいなね」「こんなにも雪が残っているよ」と参加者から声が…。

もうすぐゴールデンウィークというこの時期に、高い木立に守られるように、真つ白な雪が積もっているではありませんか。

参加者はゆく冬を惜しむように、雪の感触を確かめました。

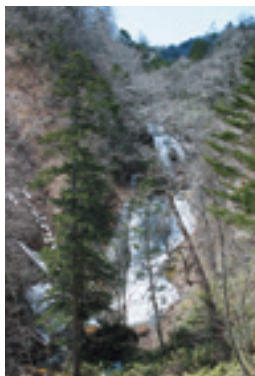


山溪に白く輝くもの これが、三段の滝

【11時52分】先頭に行く参加者が数人、額に手のひらを当てて、木立の間から川の向こうを眺めています。

山溪に沿って筋状に白く輝くものが見えます。雪かと思いましたが、よく見ると溪流。これが、三段の滝でした。

さあ、もうすぐゴールです。頑張って歩きましょう。



春の香りに ほど良い苦味

【11時55分】

三段の滝までもう少しというところに、広い空き地がありました。こ

こで昼食をとります。

参加者は枯れた草むらに仲良く腰を下ろして、持参した昼食を広げます。

空き地では、『モモンガくらぶ』のメンバーとふおれすと鉾山の職員がテーブルにコンロを用意して、天ぷらを揚げていました。



ネイチャーセンター

ふおれすと鉱山

自然に親しみ、自然を学び、自然を育むためのかけがえのない施設。郷土の自然を愛する市民の提言と熱心な議論のもと、『人と自然のふれあい拠点』の鉱山地区に誕生し、『自分たちのまちは自分たちで』という市民パワーを資源に、市民・NPO法人・市の協働という形で運営されています。

館内には市民団体の活動報告や自然紹介のコーナーのほか、クラフトルーム、多目的に利用できるネイチャーホールなどがあり、最大80人まで宿泊（有料）することができます。

●イベント

自然体験や自然観察、クラフト教室、子どもキャンプなど、登別の自然を生かしたイベントを開催。市の広報紙で参加者を募集しています。

●自然体験プログラム

すべてのプログラムがオーダーメイドで作られ、「こんなことが学びたい」「子どもたちにこんなことを学ばせたい」という利用者や引率者の主体的なねらいを達成できるように工夫されています。

■問い合わせ

登別市ネイチャーセンター ふおれすと鉱山
☎059-0021 北海道登別市鉱山町8-3
☎0143 2569



コーザン全開遊び



▼幌別川と魚たち



▼草木染め



▲調査体験プログラム



▲◀ミズバショウ

集合場所をちよつと抜け出し、空き地周囲の自然を探ってみます。すると、ありました。木立の陰の小さな湿地の中に、ミズバショウの群生を発見。こんなところにも自然は清らかな世界を垣間見せてくれます。花一つ一つがまるで白い妖精のようです。

自然が見せてくれた 白い妖精の世界

ギョウジャニンニクやフキノトウ、コゴミなど春の山菜をカ lari と揚げ、参加者に味わってもらおうという計らいです。
おにぎりを片手に、紙皿に盛られた揚げたての山菜に塩を少々ふりかける。春の香りにほど良い苦味がして、舌鼓。子どものころ苦手だった山菜が、こんなにおいしいなんて…。きれいな春の空気と自然の恵みに感謝。

◆◆◆ 終わりに ◆◆◆
ワンデイハイイク同行取材『鉱山の森、春への誘い』、いかがでしたか。ふるさと登別の美しい自然と春の清らかな空気を、少しでも感じていただけたなら幸いです。
『ワンデイハイイク』の参加者はこの後、ふおれすと鉱山までの4・5kmの道のりを歩いて帰りますが、読者の皆さんはここで解散です。
ふおれすと鉱山では、登別のさまざまな自然を紹介しています。宿泊施設もありますので、ここを拠点に自然散策を楽しむのはいかがでしょう。きっと、森の中、美しい世界との出会いが待っているでしょう。

【12時53分】さあ、これがこの『ワンデイハイイク』の目的地、三段の滝（別名：カマンベツの滝）です。この時期、滝は、雪解けで水量が多く、迫力満点。参加者は一様にしぶきの中にしばたらずみ、自然の力を体感していました。

【12時47分】昼食時間が終了です。いよいよ、三段の滝へ出発です。来た道を少し戻り、胆振幌別川の支流まで坂を下ります。
すると、水を打つ滝の音が聞こえてきます。





鉾山の春

天からこぼれ落ちるもの。
それは、桜の花びら。
鉾山の森深く、ひっそりと桜が
咲いている。
かつて賑わいをみせた集落の跡に
一人佇み、耳をすますと、
記憶という名の映画館から、
カラ、カラと
フィルムを回す映写機の音が
聞こえてくる…



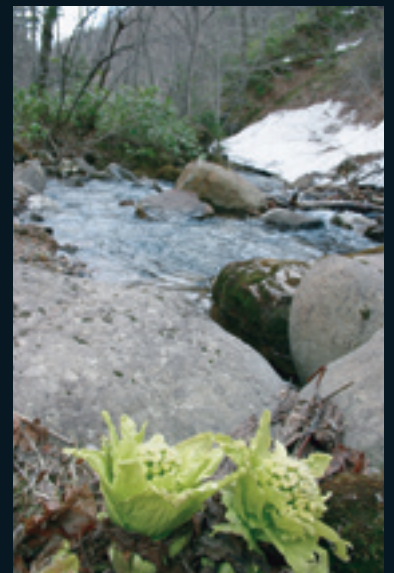
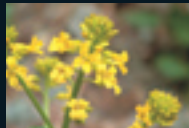
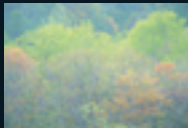
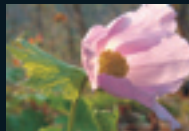
▲硫黄精錬所

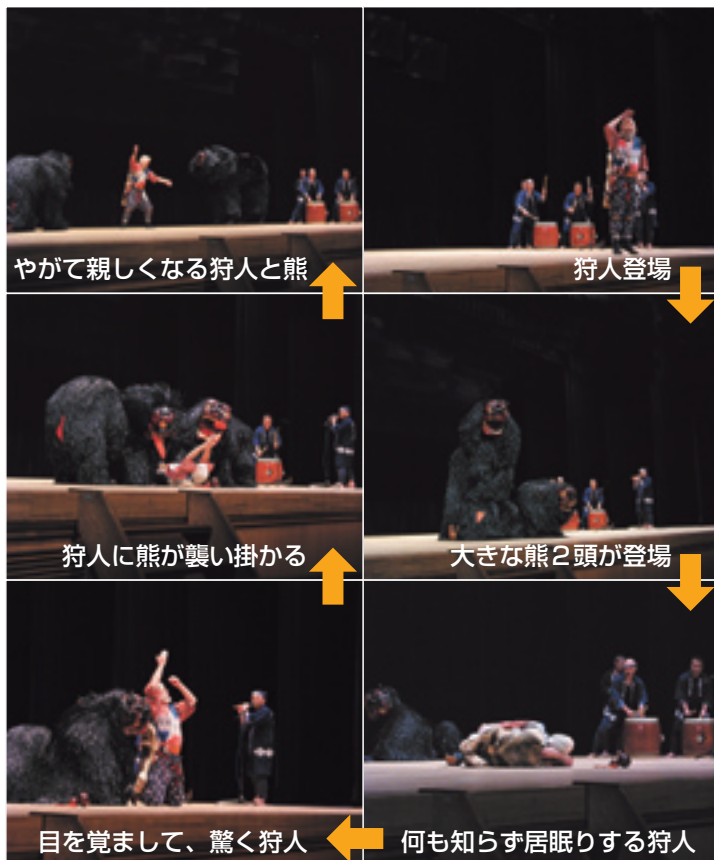


▲鉾山馬車鉄道

登別市の北に位置する、鉾山町。
胆振幌別川の急峻で、なおかつ美しい
渓谷に身をゆだねるその町は、明治
39年から大正年間にかけて鉾山で
栄え、人口はおよそ2,000人にまで
膨れ上がり、ビリヤード場や映画館
などの娯楽施設、床屋、旅館、菓子
屋のそろそろ大きな街となっていた。

森が切り開かれ、燃料のために木
は切られ、精錬所の煙害で木は育た
なくなった。一度は、壊滅的なダメ
ージを受けたが、閉山から数十年経
った今、森は確実に再生している。





郷土芸能 熊舞

数百年も昔、けもの道しかなかったころ、登別温泉の湯沼には、キツネや熊などの動物たちが薬湯につかって傷を癒やしていた。この地に初めて足を踏み入れた人間が、山中で熊と出会い、最初は驚くが、やがて心が触れ合うようになり、その熊の案内で地獄谷へたどり着いた。

こんな登別温泉に伝わる言い伝えをもとにして、昭和56年に地元温泉街で働く若者と登別観光協会が中心になって、豊かな湯量への感謝と多くの観光客の訪れを願い、創作されたのが郷土芸能『熊舞』です。

熊舞は、開拓当時の狩人と熊の出会いを表現。大自然の中で熊と人間は敵味方ではなく、心が通じ合う友人であったという光景を、笛と太鼓のお囃子にあわせてユーモラスに表現した、楽しい郷土芸能です。

現在、登別中学校でも総合的な学習の時間の中で熊舞の練習に取り組んでおり、『登別地獄まつり』で披露しています。



まちのうごき のぼりべつ

市民の思いを届ける

『007 ロケ誘致署名簿を伝達』

平成16年11月7日(日)、香川県高松市で、映画『007』シリーズ最新作『赤い刺青の男』の映画化とロケの実現をめざす『007 ロケ誘致署名簿伝達式・第2回署名エージェンツ会議』が行われ、登別市の内田史郎助役が香川県の川北文雄副知事にロケ誘致を願う市民や観光客など2万4千503人分の署名簿を手渡しました。

シリーズ最新作(小説)の舞台には、香川県をはじめ登別温泉や市内のテーマパークなどが登場。この映画化は、登別をPRする絶好の機会として、市は平成16年8月中旬から署名への協力と呼び掛けてきました。署名簿は、香川県分と併せ、本年1月にイギリスの映画製作会社に届けられました。



▲香川県の川北副知事に署名簿を手渡す内田助役(右)

人にやさしい建物です

『葬斎場が北海道福祉のまちづくり賞最優秀賞受賞』

平成16年10月20日(水)、道庁で平成16年度北海道福祉のまちづくりコンクール表彰式が行われ、平成16年4月に供用開始した火葬場『登別市葬斎場』が、ハード部門最優秀賞を受賞しました。

このコンクール(ハード部門)は、北海道が福祉的配慮に優れた公共的施設などの普及啓発のため実施しており、葬斎場は敷地内通路へのロードヒーティングの敷設や点字表示付総合案内標示板の設置のほか、トイレへの点字付の案内標示やオストメイト用パウチ洗浄装置と側面への鏡設置など、福祉的な配慮が高く評価され、今回の受賞となりました。



予想を上回る人気です

『市民プールが入館者10万人を達成』

平成17年2月24日(木)、新しい市民プール『らくあ』(愛称)の入場者が10万人に達しました。

『らくあ』は、健康増進施設として平成16年6月にオープン以来、多目的プールで行われる水中運動教室や流水・歩行プールの利用が好調で、今年3月末までの入館者を7万人と見込んでいた市の予想を大きく上回り、この日早くも10万人に達しました。

10万人目の入館者になったのは、水中運動教室に参加している袋美樹子さん(桜木町)。上野市長から記念品が手渡され、「びつくりしました。これからも健康のためプールに通います」と袋さんは笑顔で話してくれました。



▲上野市長から記念品を受け取る袋さん(左)